

子どもの読書活動支援ボランティアのための研修会

- 目的：** 地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等も行える人材を養成する。
- 日時：** 平成24年6月6日（水）～6月8日（金）
- 場所：** 伊達市立図書館
- 参加者：** 33名

【参加者からの声】

読書活動の現状を知ることができてとてもよかった。自分でもしっかり勉強したい。

【1日目】

講演 「子どもと読書」

福島子どもの本をひろめる会顧問 内池 和子 氏

子どもにとっての読書活動の大切さについて、内池さんから講演をいただきました。

30年以上子どもたちに寄り添い読書活動に携わってきた内池さん。地道に読書活動を実践なされてきた体験談の多くは、ボランティアに携わる者にとって、大きな感銘を受けるものでした。「聞く力」「イメージする力」「読む力」を子どもたちに付けてやりたいという内池さんのお話から、あらためて読書活動の大切さを再認識させられました。



【参加者からの声】

読書を通して、子どもたちを豊かな人間関係を構築できる大人にさせたい。

講義① 「活動の意義について」

～学校図書館とは！～

福島県教育庁県北教育事務所学校教育課 指導主事 横山 貴英

～ボランティアとは！～

福島県教育庁県北教育事務所総務社会教育課 社会教育主事 小野 忠大



県北教育事務所指導主事より、子どもたちの読書の現状や小学校の取組み事例をもとに学校図書館の機能・役割、そしてこれからの学校図書館に求められる課題について説明がありました。

続いて、同事務所社会教育主事から、学校図書館ボランティアの役割や活動についての話を通して、学校図書館ボランティアが、今後、子ども読書活動推進にとって重要な役割を担っていくこと、学校や公立図書館との連携が大切であることについて説明がありました。

講義② 「子どもへの図書館活動」～日々の実践から～

福島県立図書館 児童資料チーム 主任司書 吉田 久恵 氏

県立図書館の司書である吉田さんが、日々の実践の中で児童サービスについて大切であると感じていることについて、実践例を交えながらお話しいただきました。

「子どもとしっかり向き合うこと」、「ヤングアダルトに対する配慮の必要性」、「地域の図書館スタッフとよい関係を築くこと」など、子どもへのアプローチと子どもと本を結びつける役割としての基本を学ぶことができました。



【参加者からの声】

子どもの読書がいかに大切かやニーズに合わせた読書支援が大切なことなどとても勉強になった。
読む側がもっと子どもの本を知る必要性を感じた。

演習「読み聞かせの技術から子どもと本を結ぶ」～はじめの一步また一步～

J P I C 読書アドバイザー 児玉 ひろ美 氏

昨年度に続き、講師に児玉さんを迎え、「読み聞かせ」についての演習を実施しました。

児玉さんが実際に絵本の読み聞かせをしながら、「選書のポイント」「読みかかせの技術」「お話会のプログラム」など、実践的なお話をいただきました。すぐに役立つ読み聞かせのポイントやアドバイスをいただくことができました。



【参加者からの声】

具体的な読み聞かせの技術を学ぶことができ、分かりやすくとても参考になった。

本離れの進む子どもたちに関心を持たせるきっかけにしたい。基本の再確認ができた。

選書のポイントや読み聞かせの技術を学ぶことができた。初心者にもとても分かりやすかった。

青いコートのはなしや絵本の読み比べがとてもよかった。

事例発表「子どもと図書を「つなぐ」学校図書館経営」

福島市立松川小学校司書教諭 佐藤 文江 氏
松川小学校図書ボランティア「おはなしおばさん」 長岡 由江 氏



松川小司書教諭
佐藤 文江 氏

学校司書教諭としての読書活動への取組みと、学校読書ボランティアの活動の実践事例を発表していただきました。

また10年以上にわたり学校でのボランティア活動を続けてきた長岡さんらグループと学校の連携の実際をお話しいただきました。生涯にわたって本に親しむ素地を養ってやりたいという熱い思いが伝わってきました。

学校とボランティアがよい関係を築き取り組んでいる事例としてとても参考になりました。



松川小図書ボランティア「おはなしおばさん」
長岡 由江 氏



【参加者からの声】

環境の整備、各機関との連携、人材育成の必要性を感じた。

実践校での取組みが、全ての学校に広がることを期待したい。

子どもたちが使いやすい図書室にしたいと思った。

講義③ 「図書館とボランティアとの関わり」～ボランティアに望むこと～

福島県立図書館 児童資料チーム 専門司書 大崎真紀子 氏

公共図書館と読書ボランティアのかかわり、学校との連携と学校支援事業について実践事例を交えながらお話しいただきました。ボランティアに望むこととして、図書館を活用してほしい、信頼できる関係を作してほしい、図書館を育ててほしいというお話をいただきました。



【参加者からの声】

これからボランティアとして活動していく上で、とても力強い励ましの言葉に聞こえた。

読み聞かせがとても楽しかった。

交流会「子どもの読書活動推進について語り合おう！」



参加者全員が3つの班に分かれ、それぞれの立場から子どもの読書活動推進について意見交換をしました。

この3日間の研修を締めくくり、今後の活動につながる充実した話し合いがなされました。

【参加者からの声】

他市町村の情報をいただいて、とても参考になった。うまくいっているところがとてもうらやましい。

読書活動推進計画を作って終わりではなく、始まりとしてほしい。



御意見 要望 感想（参加者アンケートから）

子どもの世界が広がるような本に出会えるお手伝いをしていきたい。

またこういう場を作ってほしい。交流の場が少しでも増えるとありがたい。

研修内容を、講義形式よりも分科会形式やワークショップにすると参加者のニーズに合ったものになるのではないか。

読書離れが進む子どもたちを何とかしたいと思った。



フォローアップ研修 「ワークショップ形式での読み聞かせ技法」

J P I C 読書アドバイザー 児玉 ひろ美 氏



今年度は昨年度の受講者を対象に、読み聞かせの技法等を高めるためのフォローアップ研修を実施しました。

研修生全員が場と対象を設定した絵本を持ち寄り、実際に読み聞かせを行いました。最後に児玉さんより一人一人に読み聞かせの具体的なア

ドバイスをいただきました。より実践的でとても有意義な研修となりました。

みなさん、お疲れ様でした。